

和歌山県田辺湾に迷入したシワハイルカ（マイルカ科）と 推定されるイルカの記録

Shin KUBOTA, Kazuo YAMAGUCHI and Takushi KISHIDA : First record of possible *Stenobredanensis* (Dephinidae) straying into Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信*・山口一夫**・岸田拓士*

マイルカ科の1頭を田辺市新庄町の内之浦湾で2006年6月10日午前7時頃に湾内の釣り堀筏に船で向かう釣り客が発見し、釣り堀の従業員に知らせた。著者の山口がすぐに現場に向かい、小型ボートから撮影した。このイルカの体長はボートの大きさから推測して2 mほどであった。イルカは最初はボートを警戒し、ある一定の距離をとっていたが、釣り堀筏の店長が餌用の生きたアジを弱らせて与えると食べるようになり、ボートから2 mほどの所まで寄って来た。その日の正午から久保田も1時間ほど観察したが、イルカは岸壁へ接近しないまま、背鰭を見せながら目の届く範囲であちこちへ移動した。店長らによると、「その後もイカを食べたが、その日の夕方には港を出て行った」とのことである。

歴60年のベテラン漁師は「この港ができてから初めて見た」と驚いた。また、「イルカは港内のあちこちを遊泳していた。魚を追っているようにも見え、イルカが潜るとすぐに近くで小型のボラなどが逃げるように跳ねていた」とのことであった。さらに、「その影響かどうか分からないが、体長50 cm前後の大型ボラ20～30個体が船着場の岸壁に近寄ってじっとしていた」とのことだった。その後のイルカの情報は途絶えた。

日本鯨類研究所調査部に画像を送付して同定して頂いたところ、「海面上の体色はバンドウイルカに近いが、多分、鯨種は頭の形からシワハイルカだと思います」との返答であった。ここに、日本鯨類研究所調査部に深謝致します。

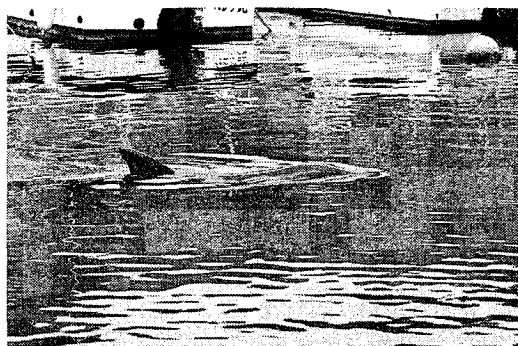


図1

和歌山県田辺湾に迷入したシワハイルカと推定されるマイルカ科のイルカ

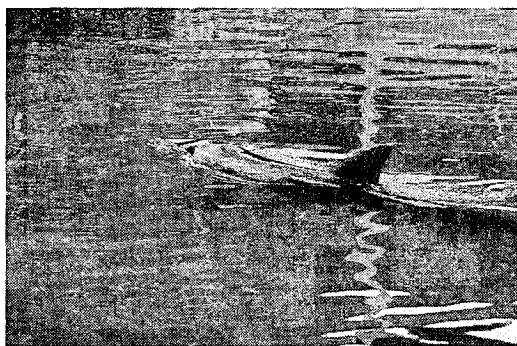


図2

山口によると、背鰭の傷から同一個体と推察されるイルカが2度目に現れたのは田辺市江川の田辺漁港で、2006年6月12日午前8時頃に、漁港で作業していた漁協関係者が発見した。経

山口の撮影した画像から、岸田も、頭部から吻先にかけてくびれが無くなめらかな形態であることから、シワハイルカ *Stenobredanensis* であろうと独立に同じ同定をした。

田辺湾周辺海域では、これまでにシロナガスクジラ（日本鯨類研究所調査部によると、おそらくナガスクジラであるとのこと）、スナメリ、イシイルカ、ハナゴンドウ、ハンドウイルカ、マイルカ、コビレゴンドウ、シャチ、オガワコマッコウ、スジイルカの漂着や迷入が記録されているだけなので（岸田ほか, 2003; 岸田ほか, 2004, 岸田ほか, 2006）、今回の種がシワハイルカだと確定できれば、この海域ではこの種の初めての迷入記録となる。

引用文献

- 岸田拓士・森阪匡通・久保田信・天野雅男.
2003: 和歌山県白浜町番所崎の南浜にて発見されたハンドウイルカ *Tursiops truncatus*.
漂着物学会誌, 1, 25-27.
———. 久保田信・小林亜玲・田名瀬英朋.

2004: 和歌山県白浜町番所崎先端の浜に漂着したコマッコウ科鯨類について. 漂着物学会誌, 2, 33-34.

———. 田名瀬英朋・久保田信. 2006: 和歌山県白浜町椿の海岸に漂着したスジイルカ *Stenella coeruleoalba*. 南紀生物, 48(1), 30.

* 京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒 649-2211 西牟婁郡白浜町 459)
Seto Marine Biological Laboratory, Field
Science Education and Research Center, Kyoto
University
(〒 649-2211 Shirahama 459, Nishimuro,
Wakayama, Japan)

** 紀伊民報
(〒 646-8660 田辺市秋津町 100)